

3. マラソン大会では、自己ベストを目標タイムとし、そのタイムを超えるように努力する。



4. 各学年男女別に1位は金メダル、2位は銀メダル、3位は銅メダルを授与する。また、自己ベストを更新した児童には『限界突破メダルシール』、惜しくも更新できなかった児童には『限界チャレンジメダルシール』を記録証と共に授与する。



『限界突破メダルシール』



『限界チャレンジメダルシール』

6 主な成果

オリンピックの赤羽さんから指導していただいた三つのポイント①手は生卵を握るように優しく握る②うではひじを曲げ、伸ばさないようにしてふる③目は足元ではなく、前を見る(1,2,3年)③お尻の筋肉を使って走る(4,5,6年)を意識して走るように声かけをして、練習に取り組むことができた。また、大会では、順位だけでなく、自己ベストを目指してがんばる姿や、友だちと励ましあい、協同して活動する様子が見られた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

東京オリンピックのコンセプトの1つである「全員が自己ベスト」を意識してこの事業を展開した。オリンピックとの交流を生かして取り組めるようにした。和倉温泉のキャラクターであるわくたま君をデザインに取り入れて、メダルを作った。

8 主な課題等

残念ながら自己ベストが出なかった児童が何人かいた。その児童にも

| | |
|-----------------|---|
| | チャレンジメダルシールを渡したが、少し悲しそうであった。目標の設定の仕方などに工夫の余地がまだあるので、全員が自己ベストを出せるようにしたい。 |
| 9 来年以降の 実施予定 | 児童は自己ベストを超えるという目標を持って取り組めたので、来年も継続して行なう予定である。 |